

2023 年 7 月 18 日

アウディ、ネッカーズルムの実習生プロジェクト： NSU Prinz に e-tron システムを搭載

- ネッカーズルム拠点 150 周年記念プロジェクト、実習生がネッカーズルム製クラシックカーを電動化
- 1971 年製造の NSU Prinz 4L に、Audi e-tron 等の最新パワートレインを移植・搭載
- CHRO ハビエル ロス：「若い才能によるこのプロジェクトは、アウディの力強い未来を示している」

（ドイツ本国発表資料）2023 年 7 月 8 日、ネッカーズルム：ネッカーズルム拠点の 150 周年を記念して開催されたファミリーデーで、12 人の実習生が、アウディのルーツにあたるブランドのひとつ、NSU のアイコン的なクラシックカーの電動モデルを公開しました。「EP4」と名付けられたそのクルマは、自動車メカトロニクス、ボディワーク、車両構造メカニクス、塗装の各コースに所属する実習生が制作。「E」は電動駆動を表し、「P4」は NSU Prinz 4 を表しています。NSU Prinz 4 は、1961 年から 1973 年まで、NSU Motorenwerke によってネッカーズルム拠点で生産されたモデルです。

ネッカーズルム拠点でメカニクスの実習生として働いているディーン シェフラーは、次のようにコメントしています。「私たちは、速くて見た目がカッコいいだけでなく、ネッカーズルムの 150 周年を記念したクルマを作りたいと思いました」。このプロジェクトの出発点となったのが、1971 年に製造された NSU Prinz 4 で、数十年の時を経て、2023 年 1 月に「EP4」のベースとして復活を遂げることになりました。実習生は、「プリンス」の愛称で親しまれたこのモデルを眠りから目覚めさせ、高電圧バッテリーを備えた新しい心臓部を搭載しました。

しかし、1 月のプロジェクト開始から、ファミリーデーにおける発表までには、長い道のりがありました。数えきれないほどのチームミーティングが行われ、実習生、トレーナー、プロジェクトマネージャーが、プロジェクトの進捗状況、課題、次のステップについて意見を交換しました。最初の作業は、NSU Prinz 4 を EP4 へとコンバートするための、強固なベースを作成することでした。

ボディワークおよび車両構造メカニクス実習生のミズガル ドーマン ハッサンは、次のように回想しています。「ベースとなる車両を受け取った時、ボディにはいくつかの錆びが発生していました。最初の作業は、これらの錆を取り除くことでした」。

駆動システム：エミッションフリーの電動ドライブ

ボディおよび塗装を専門とする若手実習生が、このクラシックカーのシャシーとボディパネルに取り組み一方で、未来のメカニクスが、パワートレイン、バッテリー、サスペンションの改造に着手しました。

「プリンス」の後部には、30hp (22kW) を発生する 2 気筒ガソリンエンジンが搭載されていましたが、EP4 には 240hp (176kW) を発生する電気モーターが搭載されています。これは、2020 年モデルの Audi e-tron の電気モーターで、プラグインハイブリッド モデルの Audi Q7 TFSI e quattro のバッテリーから電力が供給されます。

バッテリーは、かつて NSU Prinz 4 の燃料タンクが設置されていた、ボンネットの下に搭載されています。電動化されたこのモデルは、バンパー下部の幅広いエアインテークから冷却用のエアを取り込み、

ボンネットに設置された大きな開口部から熱気を排出します。トランクリッドの形状は冷却効果も改善し、半開の位置で固定することもできます。トランクリッドを半開にすると、電動パワーユニットを外から眺めることが可能になります。その姿は、スポーティな NSU Prinz 1000 をベースにした歴史的なレーシングカーを想起させます。その当時、半開にしたテールゲートの中には、キャブレターのファンネルが整然と並び、スポーティな雰囲気さをさらに高めていましたが、EP4 では電気モーターを見ることができます。

エクステリア：歴史に敬意を表したアスリートのようなボディ

実習生は、EP4 の製作にあたり、新たな命が吹き込まれた NSU Prinz の姿を、誇らしく示す必要があると考えました。そのため、フロントおよびリヤライトだけでなく、他の伝統的な要素も継承しました。1970 年代のボディの特徴的なショルダーラインおよびルーフラインは、そのまま残されています。実習生はシートメタルの錆を取り除き、アウディ専用カラーのスズカグレーとブリリアントブラックでボディを塗装しました。ボディサイドには 150 周年を記念して、「150」のアクセントがつけられました。

パフォーマンスを大幅に向上させるには、シャシーとボディワークを徹底的に強化する必要がありました。そのため、改良が施された Audi A1 のフロアパン（ブレーキとアクスルを含む）をベースに採用しました。実習生は、広範囲に改造され、幅が広がった車体をその上に載せました。大胆に張り出したフェンダーは、鍛え上げられたアスリートを連想させます。実習生は、Audi Design のサポートを受けてこれらの要素をデザインし、3D プリンターを使用してパーツを製作しました。フェンダーには、ワイドなホイールが収まっています。最新のパフォーマンスタイヤを装着したことにより、加速時やスポーティなコーナリングに必要なグリップを提供します。

塗装実習生のシンシア ハスターは、次のように説明しています。「見た目が重要です！どのような角度から見ても、EP4 の卓越したパフォーマンスを表現するデザインを実現したいと思いました」。シグナルイエローに塗装されたリヤウイングによって、非常にスポーティな外観が生み出されています。ウイングは、通常の車両のようにボディに取り付けられているのではなく、ロールケージに取り付けられています。その結果、支柱はリヤウィンドウを貫通しています。

インテリア：レーシーかつミニマリスト

インテリアは、シグナルイエローのロールケージが人目を惹くコントラストを演出しています。さらに、レーシングカーのセオリーに従い、必要最低限の機能に絞られています。他のすべてのトリム類はブラックで塗装されています。シートには、バケットシート「レカロ ポディウム」が採用されました。

インストルメントパネルには、シングルボード コンピューターとそれに対応するスクリーンが設置されています。このスクリーンには、スピードメーターおよび診断タスクを実行する車載コンピューターの機能が表示されます。

才能ある人材、情熱と先進テクノロジーによる車両の開発

すべてのステップにおいて、実習生は研修中に得た知識を実践的に活用します。車両テクノロジー/ロジスティクス トレーニング責任者 ティモ エングラーは、次のように説明します。「実習生はこのプロジェクトで、さまざまな技術や素材を自由に使用して作業する機会を得ました。例えば、今回のプロジェクトでは、電気駆動システムに加え、未来のテクノロジーとして注目されている 3D プリンティングの技術も使用しました。ボンネットには、モータースポーツでお馴染みのカーボンファイバーを採用しています。

しかし、実習生たちが学んだのは作業面だけではありません。エングラーは、次のようにコメントしています。「EP4 の製作では、非常に意欲的なビジョンと期限が設定されました。若手スタッフが自分に課せられたタスクをこなして成長し、チームとして大きな飛躍を遂げている姿を見ることは、素晴らしいことです」

実習生は今回のプロジェクトで、常にアウディの技術開発部門から貴重なヒントやサポートを得ることができました。このようなプロジェクトを通じて、彼らはアウディのプロセスについて多くのことを学び、他の部門の様々な専門家と知り合うことができました。

歴史と未来が出会う瞬間

NSU の車両は、ドイツにおいて「Wirtschaftswunder」（ライン川の奇跡）のシンボルとして、数多くのヒルクライムレースで勝利を収め、その栄光の歴史は、現在に至るまで自動車愛好家にインスピレーションを与え続けています。EP4 はその魅力的なスタイルと電動駆動システムにより、アウディのネッカルム拠点を受け継いできた歴史を、電動化の未来へと繋げる橋渡しとしての役割を担っています。

AUDI AG 最高人事責任者(CHRO) ハビエル ロスは、このユニークなプロジェクトに感銘を受け、次のように述べています。「アウディの実習生は、献身的な作業と豊かな創造力で、素晴らしい車を作り上げました。彼らはこの結果を誇りに感じています。若い才能によるこのようなプロジェクトは、アウディの力強い未来を示すものです」。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社
アウディ ジャパン 広報部

アウディ ジャパン プレスサイト
<http://www.audi-press.jp/>

報道関係者お問い合わせ：
<https://audi-press.jp/contact/>

お客様お問い合わせ：
アウディ コミュニケーション センター
0120 - 598106



アウディ グループは、プレミアムおよびラグジュアリーセグメントの自動車およびオートバイのメーカーです。グループに属するアウディ、ベントレー、ランボルギーニ、ドゥカティのブランドは、13 カ国 22 か所で生産されています。アウディとそのビジネスパートナーは、世界 100 以上の市場に存在しています。2022 年、アウディ グループは、161 万台のアウディ、15,174 台のベントレー、9,233 台のランボルギーニ、および 61,562 台のドゥカティを販売しました。2022 会計年度において、アウディ グループは総収益 61.8 億ユーロ、営業利益 7.6 億ユーロを達成しました。世界中で、アウディ グループでは 2022 年に 87,000 人以上が働き、そのうち 54,000 人以上がドイツの AUDI AG で働いていました。魅力的なブランド、新しいモデル、革新的なモビリティサービスにより、グループは持続可能で個性的なプレミアムモビリティプロバイダーへの道を着実に歩んでいます。
